

インシデント報告・事故報告の公表について

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

伊賀市立上野総合市民病院では、地域の方々に安心して医療を受けていただくために、医療安全の推進に日々積極的に取り組んでいます。その一つに、インシデント報告・事故報告の集約・分析・改善策の検討があります。医療の透明性を高め、公的病院として市民等に説明責任を果たし、医学的に的確な情報を提供することにより、事故再発防止を図る事を目的に、平成 28 年度一年間のインシデント事例・事事故事例の発生状況について伊賀市立上野総合市民病院医療事故等の公表基準に沿って公表します。

1. 用語について

①インシデント（ヒヤリ・ハット）

誤った医療行為などが患者さんに実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者さんに影響を及ぼすに至らなかったものをいいます。

②アクシデント（医療事故）

医療行為の中で患者さんに傷害が及び、既に損害が発生しているものをいいます。不可抗力によるものや自傷行為なども含みます。なお医療従事者の過誤の有無は問いません。

2. 医療事故等のレベル区分

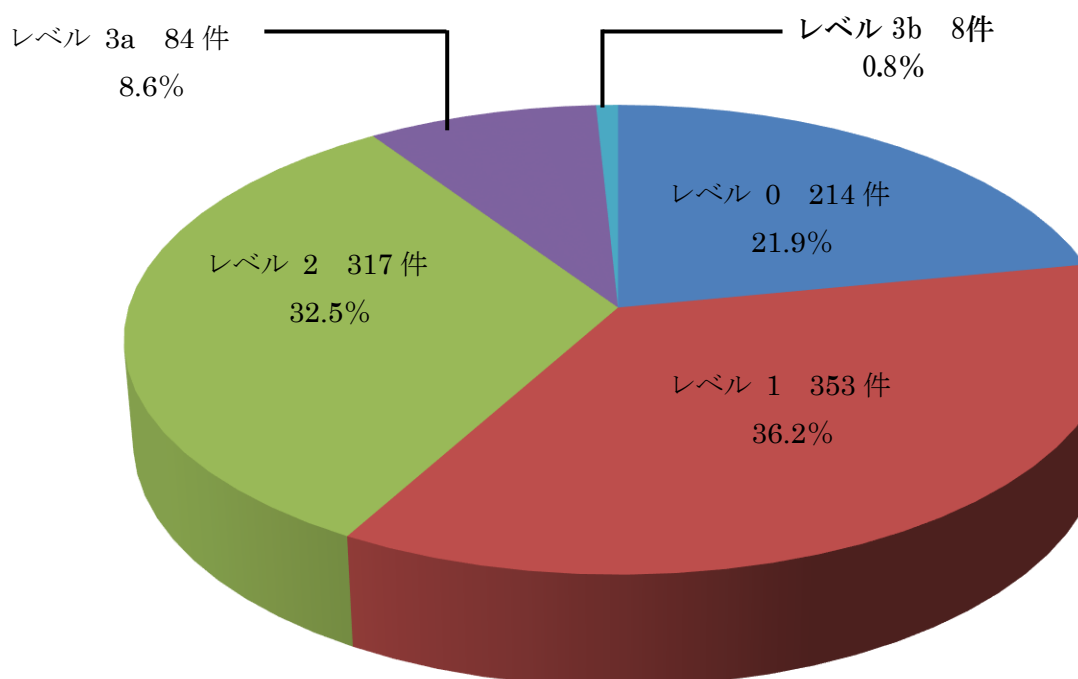
分類	患者への影響度	内容
インシデント	レベル 0	間違ったことが発生したが、患者には実施されなかった
	レベル 1	間違ったことを実施したが、患者には変化がなかった * 何らかの影響を与えた可能性は否定できない
	レベル 2	処置や治療は行わなかったが、観察強化が必要 * バイタルサイン軽度変化、安全確認のための検査等を施行
	レベル 3 a	簡単な処置や治療を要した * 消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与 チューブの再挿入、造影剤を伴わないレントゲン撮影
アクシデント	レベル 3 b	濃厚な処置や治療を要した * バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術 入院日数の延長、外来・入院患者の骨折等を含む
	レベル 4	事故により長期にわたり治療が続く、または障害が永続的に残る
	レベル 5	事故が死因となる

3. 発生の状況について

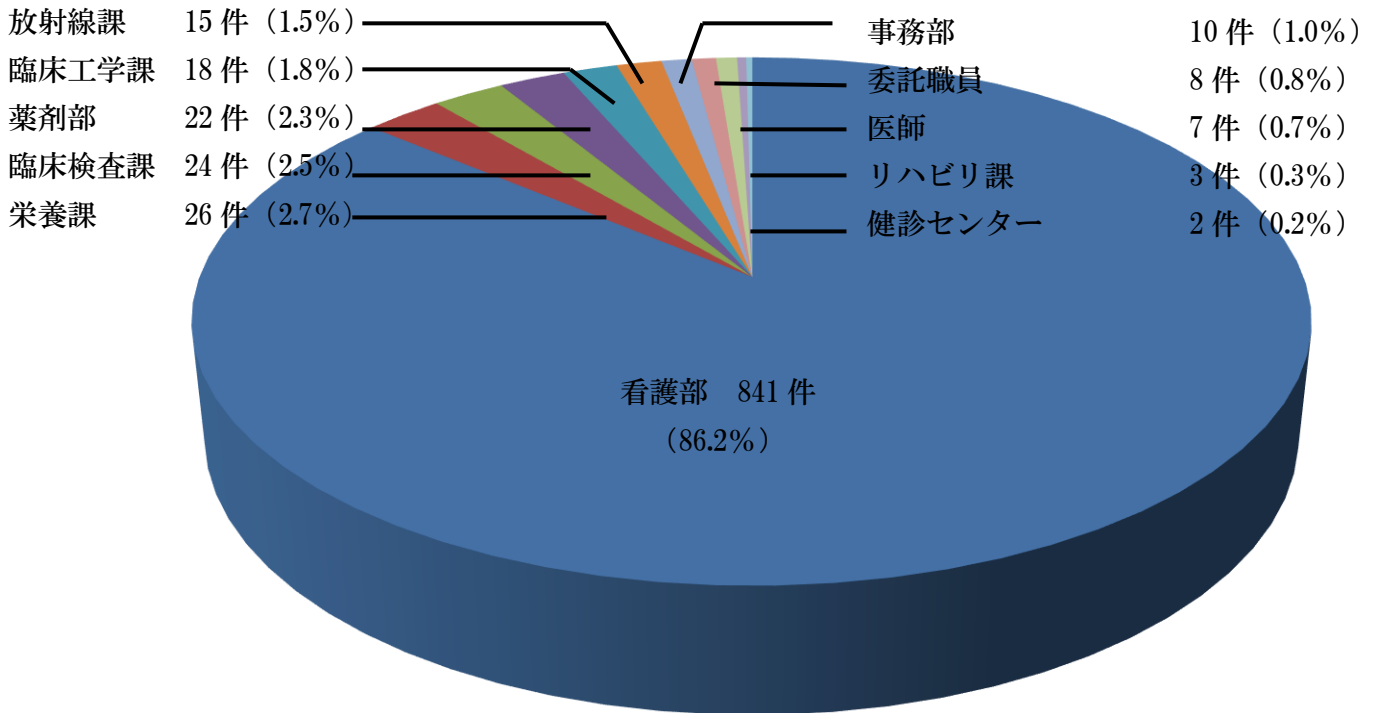
平成 28 年度のインシデント及び医療事故事例の報告は 976 件、前年度より 22 件の増加でした。

4. レベル別 報告件数

【Total 976 件】



5. 職種別報告件数



6. 代表的な事例及び再発防止策

レベル0 (214件)

- 救急外来を受診後、入院となった。電子カルテの外来部門に入院後の検査等の指示が記載されていたので病棟では指示受けが出来なかった。

【再発防止策】

指示出しのマニュアルを遵守する。電子カルテのシステムを変更する。

レベル1 (353件)

- 食事配膳誤りがあったが、介助を行う際間違いに気付き取り替えた。

【再発防止策】

配膳時の氏名確認マニュアルが、遵守されているか確認する。

レベル2 (317件)

- 内服薬について毎食後1錠の処方服用するよう処方変更したが、調剤システムの誤りで、前回処方を打ち出し、患者さんへ3錠服用させた。

【再発防止策】

処方箋発行時のマニュアル及び内服薬に関するマニュアルを変更し、病棟薬剤師を確保する。

レベル 3a (84 件)

- 鼻腔から栄養チューブが挿入されていた認知症のある患者さんに、抜管防止対策としてミトンを装着していたが、自己抜去した。

【再発防止策】

患者さんの巡視回数をふやす。ミトンの装着状態の観察を徹底する。

レベル 3b (8 件)

- 大腿骨骨折で来院された患者さんに尿道カテーテル挿入を試みた際、膣内に挿入し損傷させた。

【再発防止策】

尿道カテーテル挿入時のマニュアルを徹底・遵守する。プライバシーを確保した上での照明も確保する。

- 原因不明によって左大腿骨転子部を骨折した。

【再発防止策】

全身状態の観察を徹底する。

- トイレのため移動した際に、ポータブルトイレごと転倒し、第 1 腰椎堆体を骨折した。

【再発防止策】

転倒のリスクがある患者さんについて、スタッフ間の情報を共有化する。

- 原因不明によって右大腿骨顆上骨折した。

【再発防止策】

高齢者（特に女性）は、骨の脆弱性もあるため、全身状態の観察を徹底する。

- 19:30 に眠剤内服後、22:30 看護師が訪室した際、ベッド下で横になっているところを発見した。くも膜下出血を発症していた。

【再発防止策】

眠剤を服用した患者さんの体動観察を徹底する。

- 男性患者さんの尿道カテーテルを交換した際、手技を誤り、尿道を損傷させた。

【再発防止策】

尿道カテーテル交換時のマニュアルを徹底・遵守する。再度の実技研修を行う。

- ポータブルトイレに座ろうとして立ち上がった際に尻餅をつき、右大腿骨ステム周囲を骨折した。

【再発防止策】

トイレ等、ベッドからの移動希望がある場合はナースコールを押してもらい、看護師見守りのもと、移動するように説明する。

- 食事時ベッドを 45 度にセッティングした際に痛みの訴えがあり、すぐにベッドの角度を戻したが、痛みが続いた。腰椎 2 椎体を骨折していた。

【再発防止策】

高齢者は骨が脆弱性なので、再度理学療法士による端座位時の介助方法の研修会を開催する。直後の対応と、スタッフ間の情報共有を行うことを再度周知する。